

資生堂、第 28 回国際化粧品技術者会(IFSCC)で「最優秀賞」を受賞(5 大会連続)
最優秀賞・優秀賞の受賞は世界最多、通算 23 回目

資生堂は、2014 年 10 月 28～30 日 パリ(フランス)で開催された、世界の化粧品技術者が集う化粧品に関する科学領域で最も権威のある研究発表会「第 28 回国際化粧品技術者会大会」(28th IFSCC^{※1} Congress)で、ポスター発表部門の「最優秀賞」を受賞しました。

今回の「最優秀賞」の受賞は、第 24～27 回に続く 5 大会連続です。また、最優秀賞と優秀賞の受賞は、大会(IFSCC Congress)の間の年に開催される「IFSCC Conference」^{※2}を含め、通算 23 回目(うち最優秀賞は 19 回)^{※3}で、世界の化粧品メーカーのなかで他社の追随を許さない最多の受賞回数です。IFSCC での研究発表は、化粧品研究に携わる世界各国の第一人者によって、その研究内容と結果が評価されています。研究の先進性だけでなく、効果やメカニズムなど研究プロセスと内容の確かさに加え、その後の化粧品開発の発展に広く役立つことなど、多面的な評価によって「最優秀賞」「優秀賞(口頭発表部門のみ)」が選出されています。

今大会には世界 27 カ国から 542 の研究発表(口頭発表 78、ポスター発表 464)^{※4}があり、最優秀賞は口頭発表基礎、口頭発表応用、ポスター発表の各部門で、それぞれ 1 編が選ばれました。

※1 IFSCC: The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists(国際化粧品技術者会連盟)

※2 「IFSCC Conference」は、若手研究者の教育や発展途上の加盟国の啓発を目的に奇数年に開催。

2003 年から最も優れた研究発表 1 編を最優秀賞として表彰し、資生堂は通算 4 回の最優秀賞を受賞。

※3 【付表】に資生堂が受賞した一覧を掲載

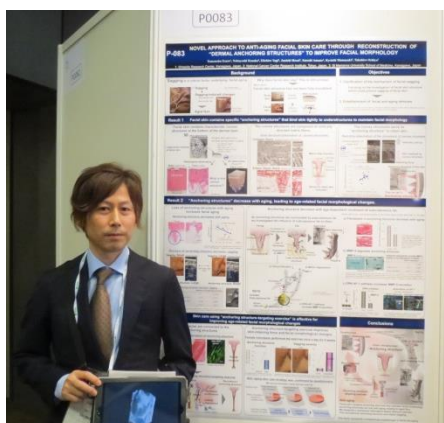
※4 第 28 回 IFSCC 大会事務局が同 WEB サイトに掲載した公式プログラムより

「最優秀賞」受賞テーマの概要

【受賞テーマ名】 顔の形状の老化メカニズムの解明

【受賞者】 資生堂リサーチセンター 江連 智暢^{えづれ ともひろ}主任研究員 (化粧品基盤研究センター)

【受賞テーマの概要】 加齢によって大きくなる“たるみ”や“ほうれい線”が、肌の弾力の衰えと関係していることを解明しました。顔の形状は加齢とともに大きく変化し、たるみやほうれい線が形成され、多くの女性の悩みとなっています。聖マリアンナ医科大学 松崎恭一准教授、独立行政法人国立がん研究センター 研究所 落谷孝広分野長(分子細胞治療研究分野)との共同研究の結果、加齢とともに肌の弾力が衰え、顔の形状を支えられなくなることが大きな要因となっていることを解明しました。今回の成果を進展させ、新たなスキンケア化粧品の開発を行っていきます。



発表中の江連主任研究員



授賞式での江連主任研究員
(左から 2 番目)

IFSCCIについて

IFSCC(国際化粧品技術者連盟)は、化粧品技術発展のための国際的な情報の共有化を目的として、1959年に8カ国の化粧品技術者会によって結成され、現在では47カ国、約15,700名の会員を擁する組織となっています。2年に1回、偶数年に開催される「IFSCC Congress」には、数百報の研究発表と1,000名を超える参加者があり、名実ともに化粧品や肌などに関する世界で最も権威のある研究発表の場となっています。さらに、若手研究者の教育や発展途上の加盟国の啓発を目的に奇数年に開催される「IFSCC Conference」では、2003年より最も優れた研究発表1編を最優秀賞として表彰しています。

【付表】

1. IFSCC Congress における資生堂の受賞歴

受賞回数	開催年	大会開催地	賞	受賞テーマ名	発表形式
1	1976	第9回 ボストン	最優秀	アミノ酸またはそれらの塩によって安定化された油中水型エマルジョンに関する研究と応用	口頭
2	1980	第11回 ヴェニス	優秀	非イオン性界面活性剤によるブチルパラベンの可溶性挙動と抗菌特性	口頭
3	1984	第13回 ブエノスアイレス	優秀	肌質の科学的判別法の開発	口頭
4	1986	第14回 バルセロナ	最優秀	新しい有色真珠光沢顔料の開発	口頭
5	1988	第15回 ロンドン	最優秀	汗臭成分の解明とその新規消臭剤の開発	口頭
6	1990	第16回 ニューヨーク	最優秀	新規な W/O 乳化型ネールエナメルの開発	口頭
7	1992	第17回 横浜	最優秀	フケ抑制剤の評価と開発に関する研究	口頭
8			優秀	酸化チタン系フォトクロミック顔料の開発とファンデーションへの応用	口頭
9	2000	第21回 ベルリン	最優秀	皮膚基底膜ケアに関する研究	口頭
10				水で乾くエナメルの開発	ポスター
11	2002	第22回 エジンバラ	最優秀	新規肌あれ抑制成分スキンケアパウダーの開発	口頭
12	2006	第24回 大阪	最優秀	新規毛穴収縮薬剤グリシルグリシンの開発	ポスター
13			優秀	セラチノサイトの脱核における制御因子の同定とバリア機能との関係	口頭
14	2008	第25回 バルセロナ	最優秀	pH 応答性高分子を利用した高撥水、高洗浄性粉末の開発とサンスクリーン製剤への応用	口頭
15	2010	第26回 ブエノスアイレス	最優秀	NMF 産生酵素の発見と新たな肌あれメカニズムの解明	口頭
16				2 相分離機構を用いたカップに付かない口紅の開発	口頭
17				オイルを透明なとろみ状にジェル化する新規な自己組織構造体と化粧品への応用	ポスター
18	2012	第27回 ヨハネスブルグ	最優秀	新しいコラーゲン可視化技術を用いた光加齢に伴うヒト真皮構造変化の非侵襲評価	口頭
19 (今回)	2014	第28回 パリ	最優秀	顔の形状の老化メカニズムの解明	ポスター

2. IFSCC Conference における資生堂の受賞歴

受賞回数	開催年	開催地	賞	受賞テーマ名	発表形式
1	2005	フィレンツェ	最優秀	顔の“たるみ”を光学的に補正する粉体「レフ板効果パウダー」の開発	口頭
2	2011	バンコク	最優秀	新たな形状を特長とした目元用パッチの有用性について	口頭
3	2013	リオデジャネイロ	最優秀	高感度近赤外カメラシステムによる顔の水分分布可視化と化粧品効果の評価	口頭
4				老人性色素斑皮膚における基底膜ヘパラン硫酸の役割	ポスター